

知識マネジメント		永田 晃也	
-----------------	--	--------------	--

配当年次	1 年次	配当学期	1 学期	科目区分	アドバンスト
単位数	2 単位	必修・選択	選 択	授業形態	講 義

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	理論知識	◎ 知識変換モデルを修得する。
	実践知識	○ 「知識共有と創造」に関する場の設計を理解する。
技能	分析解決技能	○ 場の動態分析と活性化スキルを習得する。
	実務技能	
	新規事業技能	
態度	倫理観態度	
	企業変革態度	○ 自社における知識創造経営の実践を実現する力を身につける。
	地域リーダー態度	
	国際協調態度	
※ ◎: 強く関連 ○: 関連 △: やや関連		知識マネジメント
※ 2013年度以降入学生が対象です。		

授業の概要

資本ストックや労働などの生産投入要素の拡大による成長が限界に達した現在、我々は、知識が最も重要な資源となる「知識社会」の到来に直面している。これに伴い、近年の組織論の研究領域では、組織を情報処理システムとして見る伝統的なパラダイムを超えて、知識を創造する主体として組織を捉える新たな理論が提唱されている。また、個人の知識を組織的に共有・活用しながら知識を創造する手法の体系化を指向する「ナレッジ・マネジメント」が、急速に普及してきた。

本講義は、これらの理論と経営手法を包括的に修得し、経営資源としての知識の創造、活用および蓄積に関する戦略的な指針を得ることを目的とする。

教科書

なし

参考書

- ・野中郁次郎・竹内弘高『知識創造企業』東洋経済新報社、1996年
- ・野中郁次郎・泉田裕彦・永田晃也編著『知識国家論序説』東洋経済新報社、2003年
- ・杉山公造・永田晃也・下嶋篤・梅本勝博・橋本敬編著『ナレッジサイエンス（改訂増補版）』近代科学社、2008年

授業計画・内容

- ①序論：経営資源としての知識
- ②組織的知識創造の理論（1）「情報処理」から「知識創造」へ
- ③組織的知識創造の理論（2）リーダーシップと知識創造のイネーブラー
- ④知識創造プロセスの検証（1）技術的イノベーションにおける知識創造
- ⑤知識創造プロセスの検証（2）パブリックセクターにおける知識創造
- ⑥ナレッジ・マネジメントの方法（1）ナレッジ・マネジメントの導入
- ⑦ナレッジ・マネジメントの方法（2）知識移転と知識共有
- ⑧ナレッジ・マネジメントの方法（3）発想支援と情報技術の利用
- ⑨ナレッジ・マネジメントの方法（4）知識資産の概念と計測
- ⑩ケース討論（1）
- ⑪ケース討論（2）
- ⑫ケース討論（3）
- ⑬総合討論
- ⑭課題レポートのプレゼンテーションとディスカッション
- ⑮課題レポートのプレゼンテーションとディスカッション

成績評価の方法

課題レポートとプレゼンテーション 50%、ケース分析シート 20%、ディスカッションへの貢献度 30% なお 4 回以上の欠席は不可とする。

事前・事後学習の内容 配布資料は熟読して次回講義に臨むこと。ケース討論に用いる資料は、分析シートとともに事前配布するので、資料の内容をよく理解した上で、分析シートに所要事項を記入して授業当日に提出すること。

履修上の注意

担当者からのメッセージ 見えざる資産である知識の所在を洞察するための視点と、新たな知の創造を担うリーダーシップを身に付けていただくことが本科目の狙いです。皆さんの積極的な参加を期待しています。

キーワード 知識創造、ナレッジ・マネジメント、SECI モデル